

OKIグループは、社会貢献活動の基本理念・基本方針に則り、寄付や地域貢献、社員のボランティア活動支援などを組織的に推進しています。より幅広い活動を行うため、各種のNGO/NPOと広く交流・協働し、国内外での活動を強化しています。

東日本大震災被災地への継続的な復興支援活動

OKIグループは東日本大震災の被災地復興のために、継続的な支援活動を実施しています。

このうち復興支援ボランティア活動については、2011年度に開始した宮城県七ヶ浜町における活動の継続に加え、2013年度より新たにグローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークが主催する「東日本大震災復興コレクティブアクション」に参加し、宮城県亶理町に4回にわたって社員ボランティアを派遣しました。この活動は、亶理町の町民が主体となって長期計画に基づき防潮林の再生をめざす「わたりグリーンベルトプロジェクト」を支援するものです。



七ヶ浜町における農地の整備

2013年度に実施した支援活動

- 社員による復興支援ボランティア活動（宮城県七ヶ浜町、亶理町）
- 「OKI蔵文化彩」において東北物産展を開催（福島県、宮城県）
- 公益社団法人日本フィランソロピー協会「福島の子どもたちに絵本を届けるプロジェクト」に参加
- 岩手県赤十字血液センターに保冷庫つき血液運搬車を寄贈（社員募金「OKI愛の100円募金」*とのマッチングギフト）

*OKI愛の100円募金：活動の主旨に賛同するグループ会社（2014年4月時点で30社）の役員・社員から毎月100円の募金を集め、ボランティア団体の支援などを実施するもの。

子ども向けの理科教育活動を実施

OKIグループのソフトウェア開発・SIサービス会社であるOKIソフトウェア（以下OSK）は2013年8月、福岡大学工学部と共同で、小学生を対象とした「親子ロボットアーム・プログラミング教室」を実施しました。両者は、子どもの理科離れが問題視される中、2010年から子ども向けの理科教育活動を行っており、本イベントはその活動の1つとして実施したものです。

福岡県福岡市のロボスクエアで行われた授業では、OSKと福岡大学工学部のメンバーが講師となり、ロボットの仕組みやプログラミングについての説明と受講者のサポートを行いました。参加した小学生たちは、PC上のアイコンを用いた



プログラミング教室の様子

簡単なプログラミングによりロボットの腕と手を動かし、ものを運ぶなどの動作指示を体験して、プログラミングの面白さを学びました。

小学生を対象に車イス体験講座を実施

OKIグループの特例子会社であるOKIワークウェル（以下OWW）は、障がい者在宅雇用の経験を活かし、特別支援学校における出前授業、重度障がいのある生徒向けの遠隔職場実習、地域の学校における福祉教育などを継続的に実施しています。その一環として、2013年8月には東京都港区立芝浦小学校において、「車イス体験講座～知ろう、乗ってみよう！～」と題した「夏講座」を実施しました。重度障がいを持つOWW社員が講師を務め、1年生から4年生約40名の児童が車イスの介助と走行を体験しました。OWWの車イス体験講座は2004年からスタートし、2013年度までに約120回行われています。



段差や坂道を想定した介助体験

山間部の子どもたちの教育を支援

タイ王国北部の生産拠点OKIプレジジョン・タイランド（以下OPNT）は、2014年2月、ランブーン県メーター郡ターカード市メーサゲ村にある山岳民族授業センターに学習用品、スポーツ用品、飲用水ろ過設備、生活用品などを寄贈しました。

山岳部にあるメーサゲ村は、車でのアクセスも困難な地域で、山岳民族授業センターは同地域で唯一の小学校です。電気が通っていなかったため、政府の支援でソーラーパネルを設置したものの、学校設備や子どもたちの学習用品・生活用品は依然として不足しています。OPNTでは現地の要望に応え、PC、教科書、ノート、鉛筆・消しゴム・定規・クレヨンなどの学習用品、スポーツ用品、および防寒着・毛布・手袋などの生活用品を寄贈しました。また、同地域では水道もなく、山水の飲用による結石患者が極めて多いため、飲用水ろ過装置も設置しました。



飲用水ろ過装置の設置